

新年度ならでは

私は毎日メッセージを書いていますが、十四日、十五日の分は現在ホームページに載っていません。「安藤校長、くじけたかな」と思った方もいるかもしれませんがね。実は、ここに「新年度ならではの理由」があるのです。

昨年度は、二人の教頭のうちI教頭がHPへのアップを行っていました。教頭には膨大な量の仕事があるのですが、そういう方面に詳しい彼は、頼めば難なくやっていました。したがって、私は書くだけ。それを教頭がアップする。その要領で連携よろしくやってきました。

しかし、彼が異動しました。彼の代わりにHP担当を務めることになったのが若いY教諭です。Y教諭もその方面に詳しいのですが、何せ、担任をやりながらの担当です。下校までは生徒に付きっぱなし。下校してからも、消毒作業や欠席者への連絡、会議や翌日の授業準備などに取り組まなければなりません。おまけに、「働き方改革」ということで早く帰るようになってさく言われます。新しい立場や環境に慣れるまで時間がかかるのは、やむを得ないことです。

二人の姿から、それぞれに学べることもあると思います。「I教頭はHPへのアップを難なくやっていた」と先に書きました。彼が毎日普通にやっていたことですが、彼は組織の中で知らないうちに「なくてはならない存在」になっていたと言えます。

組織の中にはたくさん歯車があります。それらがかみ合って組織は正常に動きます。そういう存在になるべく日々頑張ることが大切です。

「やはり、〇〇系のくさんがいないと困るね。」「くさんの代わりはできても、くさんのようにはできないなあ。」周りからこのように思われるようになったら、あなたはその組織の中で「なくてはならない存在」だということになるでしょうね。

「Y教諭は担任をやりながらの担当」と先に書きました。ここにY教諭の主体性が発揮されると私は思っています。

「担任をやりながらは大変だろうから、違う人に……」と私が言うのと、「いえ、やります！私があります！」とY教諭は言いました。すぐにはその要領を得ないかもしれませんが、やる気は十分のようです。

Y教諭が今の立場から、どのように自分のやり方でこの課題を解決するか、私はとても楽しみます。同じことを遂行する「結果」よりも、新しいやり方を生み出す「過程」を大切にしたい。私はY教諭に期待を寄せています。

これが「新年度ならではの理由」です。そのうちに要領を得たY教諭が、HPをリニューアルさせるかもしれません。そうやって、組織は活性化していくでしょう。（四月十九日 記）